

# 妻の夢ものせて移動木彫り美術館が行く！

浜松(へうゆう)の里 古川 三千雄様(80歳) 平成27年 入居時一人入居

## モーレッツ社員を支えた家族

静岡県掛川市生まれの5人兄弟の4番目。子供時代は地理と図画工作が得意なガキ大将だった。拾った流木や枯れ木を使って遊んでいた。高校卒業後ホンダ技研に就職。工場に配属されて品質管理の仕事に就いた。妻とは社内結婚。当時私は埼玉で働いていて東京の総務にいた彼女と結婚。子



今年パワーアップしたいという移動木彫り美術館

どもは一男一女。工場で20年勤めてから営業に異動になりそれから65歳の定年まで勤め上げた。時代は高度経済成長の真ただ中だった。毎晩帰りは遅く、休日は接待ゴルフと麻雀。まったく家庭をかえりみない、いわゆるモーレッツ社員だった。営業に異動してからというもの転勤で日本中をまわるようになったが、家族皆がよく付いて来てくれたものだと思う。数年毎にある引っ越しも全て妻任せ。転勤先の奥さん達との付き合いや、知らぬ土地での子供の教育など、妻には本当に苦勞を掛けた。

## 木彫りに没頭した定年後

現役の時、自分の時間や趣味なんて考えたこともなかった。私がライフワークとなる木彫りと縁を結んだのは45歳頃に遡る。肺結核治療の長期入院だった。隣のベッドの人が退院する時「入院が長くなると退屈するよ」と、はがきサイズの木板と自分の彫刻刀を



置いて行ってくれた。そこでバラの花を彫って版画の年賀状にしたところ大変好評だった。俄然、彫刻に興味湧いて勉強した。行き着いたのがこの木彫り。丸太をチェーンソーで荒削りし、のみ一本で彫るところに惹かれた。定年後は仕事がなくなった穴を埋めるように木彫りに夢中になった。花好きの妻はパンフラワーが趣味だったので、「いつか夫婦で個展をやりたいね」ってよく話していた。妻は私の定年から3年ほどして心筋梗塞であつたという間に逝ってしまった。個展は二人の夢だったから本当に悔しい。その無念を晴らすように木彫りに没頭した。

## 天竜の合同工房のお陰

入居の検討を始めたのは75歳の頃。浜名湖エデンの園と浜松へゆうの里を見学しようとしたらエデンが休み。ゆうゆうの募集スタッフが笑顔で迎えてくれた。最初からご縁があつたので

しよう。問題は入居しても木彫りと水彩画が存分に出来るかということ。入居者に制作中の騒音などで迷惑をかけるわけには行かないでしょ。創作活動を続けるにはどうしたらいいかと悩んでいたところ、幸運にも、「天竜船明(ふなぎら)ダム」近くに、古民家の蔵を格安で借りられることになった。なんと仲間7人で合同の工房が確保できた。

## 「人好き」にとつて

こんなよい所はない

何より食事がおいしい。食事で思い出すのは、昨年の想定外の大型台風で全館が停電した時のこと。食堂で「食事を申し込んでいない人もどうぞ。温かいものを召し上がって下さい」とふるまってくれた。本当に有り難かったなあ。人の温かみを感じる。私も人が好きだ。

今は水彩画も木彫りも展示に力を入れてる。市民展では3回金賞を受賞。今後の目標も金賞以上を受賞したい。多くの人に見て欲しいと思うと力が入る。木彫り談義などできる仲間をどんどん増やしたい。